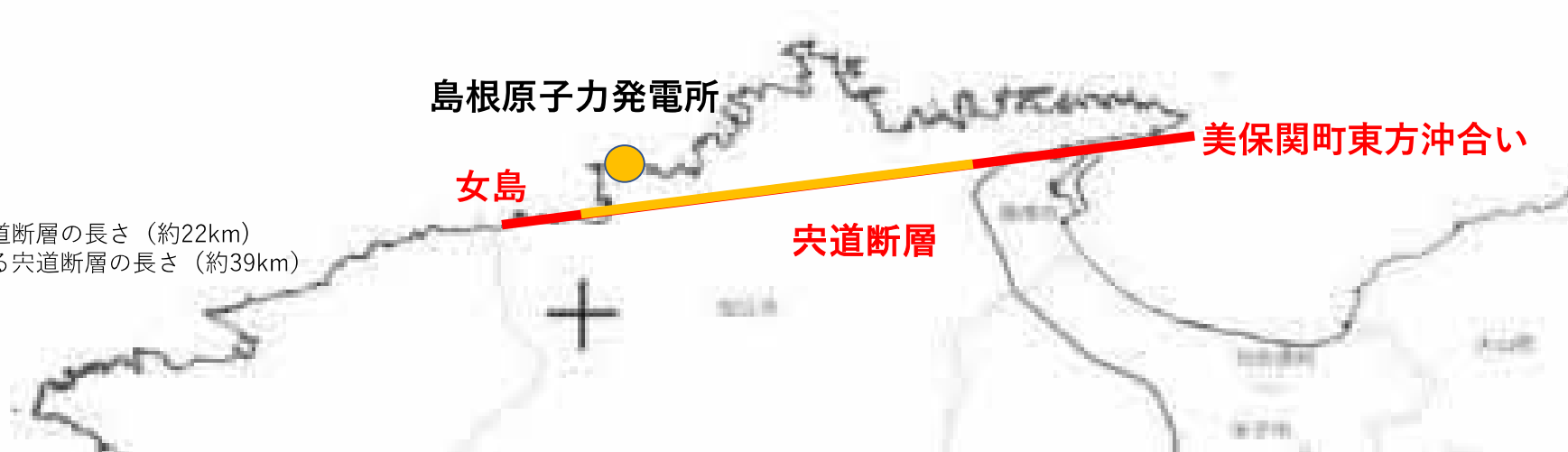


○ 宍道断層の長さの評価

- 中国電力は、申請当初では断層長さを22kmとしていましたが、原子力規制委員会の指摘を踏まえ、追加調査等を行い、西端及び東端を以下のとおり見直し、断層長さを約39kmと再評価しました
- 宍道断層の西側における地表地質踏査、海底面調査、ボーリング調査結果等から不確かさを考慮して、断層が認められない女島を西端とした
- 宍道断層の東側における地表地質踏査や音波探査結果等を実施した上で、地震調査研究推進本部が活断層の可能性があるとした美保関町東方沖合いまでの地点を東端とした



※本資料は概略を示したものであり、正確な位置関係等を示したものではない。

○ 宍道断層と鳥取沖西部断層との関係

原子力規制庁は、中国電力から調査結果を聴取し、両断層の端部間の領域には12万～13万年前以降の断層活動がないこと、宍道断層と連動して動いた痕跡がみられないことから両断層は連動しないものという評価が妥当であることを確認しました



※本資料は概略を示したものであり、正確な位置関係等を示したものではない。

## 無人航空機を用いた環境放射線モニタリング

令和5年度より無人航空機を用いた航空機モニタリングを運用すると共に、モニタリングの機動性向上のため無人航空機の更なる活用を目指し、新たな無人機の検証等を実施中。

運用中



飛行機型



ヘリコプター型

実証試験中



マルチコプタータイプ  
(ドローン)

- ・マルチコプターに小型の検出器を搭載し、測定が必要な箇所まで空からアクセスし、モニタリングポストの代わりとして定点測定することを想定。
- ・複合災害時に道路が寸断され、可搬型モニタリングポストの設置が困難な場合に有効。

# 緊急時モニタリング体制の多様性・信頼性向上への取組

## 新たな通信方法の検証（LPWAの活用）

自律型ネットワーク構築技術の1つであるLPWA(Low Power Wide Area)を搭載した環境放射線測定機器を多数配置することにより、広域の通信ネットワーク網を形成し、通信事業者に依存せずデータ通信環境を確立する手法を検証中。

